

令和5年度 第3回病院構造改革委員会議事要旨

- 1 日 時： 令和5年12月21日（木）9:00～9:40
- 2 場 所： オンライン開催
- 3 出席者： 出席者名簿(P3)のとおり30名（委員8名、事務局等22名）
- 4 議 事：

第5次病院構造改革推進方策素案（収支部分）について

ア 事務局説明

- ・資料1及び資料2に基づき、梅田病院局長から「本県立病院の経営状況」について、「第5次病院構造改革推進方策素案（収支部分）」について説明

イ 意見交換

- ・下記のとおり意見交換を実施

（委員）

- ・重要な点として、県立病院の強みをもっとしっかり認識すべきという気がする。非常に悪い予測となっている収支見通しを何とか上向けるには、もう一度基本に立ち返り、根本から業務そのものを見直していく必要があるのではないかと強く感じた。
- ・まず各年度の赤字要因をはっきりさせるべき。その上で“管理可能性”を意識し、管理可能なものに対策をとっていくべき。物価高騰、あるいはコロナ対応といった政策的な部分は、管理不能なものに分類されると思う。
- ・対策に関しては利用の拡大という方向性しかないだろう。利用拡大を図るには今一度県立病院の基本に立ち戻り、単に患者ではなく、地域の医療機関、広域に展開する病院については民間を含む医療機関に利用してもらうにはどうすべきか、戦略的に考える必要があるのではないか。
- ・費用に関しては効率性を考えるべきであり、そのためには“効果判定”が非常に重要になる。資料2 p 6に記載されているPDCAサイクルを回していく中で、効果を判定する仕組みを取り入れる必要があるのではないか。

（委員）

- ・資料2 p 5の収支計画をみると、全体として病床利用率は上がるが入院単価は下がるという予想になっており、どういう患者を集めるべきか考えないまま、数字でどうにかしようとしているように見受けられる。患者は増えるが収益としては大きく伸びず、コストがかかるばかりとなると、非効率と言わざるを得ない。これまでは集客・集患ということを意識してきたが、これ以上患者を増やしてもむしろ赤字が拡大するような病院も存在する可能性がある。となると、各県立病院の役割、収患したい患者増を今一度見極め、それに見合った規模・体制を考えていく必要があるのではないか。
- ・周辺医療機関の動きや患者数を見極めた上で、将来の患者数見通しを踏まえ、全体

のうち何割の患者数を目指していくのか考えるべき。

- ・物価高騰については、原材料価格の高騰等外部要因だけでなく、医療機器・薬品の高度化によるところもある。最新かつ高度な医療を提供する県立病院とすると、このようなコストは今後さらに増大するだろう。そうすると今以上に値引率が悪くなる可能性があり、やはり本当にその投資は必要なのか、その医療機器を用いてどのくらいの患者に対応するのか精査した上で投資をしていかざるを得ないを考える。

(委員)

- ・淡路地域では、ほぼ全ての島民が普段は自宅近くの医院に通院し、検査や手術が必要となった場合は淡路医療センターに紹介、治療が終われば地域に帰るというように、医療機関連携の下で非常に安心して医療を受けられており、県立病院は非常に大きな役割を担っている。山間部の丹波地域等も同様であろう。今後様々な収支改善策が検討されていくと思うが、特に医療提供体制が脆弱である地域における県立病院のニーズを十分考慮していただきたい。

(委員)

- ・特に病床利用率が低いと指摘されている3病院の状況を改善することが非常に重要だが、全国共通の課題として、今後は地域の人口が減ってくるため、患者数を増やすといっても簡単には増えないだろう。
- ・地方公営企業法に基づく一般会計からの繰入金があっても赤字になる要因を突き詰めていかなければならないと考える。資料2 p 5を見ると、医業収支比率の割に給与費比率や材料費比率が高すぎるように感じる。自治体病院の宿命ではあるものの、何とかすべきではないか。

(事務局)

本日の意見にもあったが、県立病院は病院によって役割が大きく異なるが、県民の健康を守り安心な生活を支えるうえで大変大きな役割を果たしていることは共通している。一方で経営状況を踏まえると、運営を効率化していかなければならないとの意見もいただいた。従来 of 立て付けを維持するのではなく、メリハリのある運営をしていってどうかという意見をいただいたものと受止めており、今後も様々な、更に踏み込んだ意見もいただけるものと思っている。病院事業全体として経営改善を進めていくため、委員の皆様には引き続きよろしくお願ひしたい。

(会長)

それでは本日の議論を受けて事務局で必要な修正をしていただき、1月29日に予定されている第4回委員会にてお示しいただきたい

閉会

出席者名簿

(委員)

区分	所属	委員名			
学識経験者	神戸大学医学部附属病院長	マ真	ニワ庭	ヨシ謙	マサ昌
	全国自治体病院協議会会長	オ小	グマ熊		ユカ豊
	富山大学附属病院地域医療総合支援学講座客員准教授	コ小	バヤシ林	ダイ大	スケ介
	東京都立大学客員教授	タニ谷	ダ田	カズ一	ヒサ久
団医療 体療	兵庫県看護協会会長	マル丸	ヤマ山	ミ美	ツ津
	兵庫県民間病院協会会長	ニシ西			カシ昂
	兵庫県介護支援専門員協会副会長	フナ船	コシ越	アヤ綾	コ子
立付けを医 場る受療	公 募 委 員	タカ高	タ田	ち	ほ

(病院局・県立病院)

	所 属	氏 名			
病院長・ センター長	尼崎総合医療センター院長	ヘイ平	ケ家	トシ俊	オ男
	西宮病院長	ノ野	グチ口	シンザ真三	ロウ郎
	加古川医療センター院長	タ田	ナカ中	ヒロ宏	カズ和
	はりま姫路総合医療センター院長	キノ木	シタ下	ヨシ芳	カズ一
	丹波医療センター院長	ニシ西	サキ崎		ホガラ朗
	淡路医療センター院長	スズ鈴	キ木	ヤス康	ユキ之
	ひょうごこころの医療センター院長	タ田	ナカ中		キフム究
	こども病院長	イ飯	ジマ島	カズ一	モト誠
	がんセンター院長	トミ富	ナガ永	マサ正	ヒロ寛
	粒子線医療センター院長	オキ沖	モト本	トモ智	アキ昭
	神戸陽子線センター長	ソエ副	ジマ島	トシ俊	ノリ典
	災害医療センターセンター長	イシ石	ハラ原		サトシ諭
	リハビリテーション中央病院管理局長	スミ隅	オカ岡	シゲ繁	ヒロ宏
リハビリテーション西播磨病院長	ミズ水	タ田	エイ英	ジニ二	
病院局	病院事業管理者	スギ杉	ムラ村	カズ和	ロウ朗
	病院事業副管理者	アキ秋	ヤマ山	テツ徹	シ志
	病院局長	ウメ梅	ダ田	タカ孝	オ雄
	企画課長	スガ菅	サワ澤	マ真	オ央
	管理課長	ヨシ吉	カワ川	アキ昭	ヒロ裕
	管理課人材育成専門官	カワ川	イ井	タツ龍	ヤ也
	管理課看護専門官	タケ武	ダ田	シ志	ノ乃
経営課長	トリ島	タ田	シン信	ジ次	